Japan Geoscience Union Meeting 2012
(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SGL44-05 会場:101B 時間:5 月 23 日 16:30-16:45

群馬県桐生市梅田地域における足尾帯大間々コンプレックスの構造層序
Tectonostratigraphy of the Omama Complex of the Ashio Belt in the Umeda area, Kiryu City, Gunma Prefecture

日野原 達哉 [1*], 栗原 敏之 [2]
HINOHARA, Tatsuya[1*], KURIHARA, Toshiyuki[2]

[1] 新潟大学理学部地質科学科, [2] 新潟大学大学院自然科学研究科
[1]Department of Geology, Faculty of Sciences, Niigata University, [2]Graduate School of Science and Technology, Niigata University

関東平野の北方に位置する足尾山地には，主にチャート，石灰岩，緑色岩，砕屑岩からなる足尾帯ジュラ紀付加コンプレックスが広く分布している．足尾山地においては，南東部の葛生地域で多くの層序学・古生物学的研究が行われており，付加体地質学に基づいた研究も進んでいる（Kamata, 1996；鎌田，1997，2000）．しかし，その周辺地域については葛生地域と同様の精度で検討が行われているわけではない．群馬県桐生市北部に位置する梅田地域も，付加体地質学に基づいた十分な調査が行われていない地域の一つである．演者らは，梅田地域に分布する大間々コンプレックス（Kamata, 1996）を岩相組み合わせに基づいて２つのユニットに区分した．調査地域の北部に分布するユニット A は，チャートや少量の石灰岩・緑色岩がスラブやブロックとして含まれる混在相と砂岩泥岩互層の破断相から構成される．調査地域の中央部に分布するユニット B は，ペルム紀のチャートと緑色岩の大規模岩体で特徴づけられる．本研究で構造層序区分と並行して微化石による年代を検討したところ，ユニット A の頁岩から保存は不良ながら中期ジュラ紀の可能性のある放散虫化石が得られた．

葛生地域に分布する葛生コンプレックスは，構造的下位から UNIT1，2，3 に細分されている（鎌田，1997）．陸源性砕屑岩の年代は主に中期ジュラ紀であり，一部は後期ジュラ紀初頭に及ぶ．UNIT1 および 3 はチャート－砕屑岩シーケンス，UNIT2 は大規模なペルム紀石灰岩・緑色岩で構成される地質体である．本研究で区分したユニット A，B は，岩相組み合わせと形成年代に基づき，それぞれ鎌田（1997）の UNIT1，UNIT2 に対比が可能である．また、原・柏木（2004）は新潟県の黒又川コンプレックスについて研究を行い，この地質体が広域的に砂岩頁岩互層を含み，大間々コンプレックスとは岩相が大きく異なるとした．しかし，本研究によって大間々コンプレックスのユニット A に砂岩頁岩互層の卓越する範囲があることが明らかになった．大間々コンプレックスと黒又川コンプレックスはともに中期ジュラ紀の陸源性砕屑岩を含む付加体であり，岩相の特徴と形成年代から両コンプレックスは対比可能と考えられる．以上から、足尾帯の大構造は，基本的に葛生向斜に代表されるような褶曲構造によって支配され，同じ年代・岩相構成の地質体が繰り返し露出していることが特徴といえる．

キーワード: 足尾帯, 大間々コンプレックス, ジュラ紀付加体
Keywords: Ashio Belt, Omama Complex, Jurassic Accretionary Complex